

神戸市にて「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』の実証実験を開始

LINE 公式アカウント「神戸市消防団」を開設し、消防団員を対象に実施

AI 防災協議会(理事長:江口 清貴)は、国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、NIED)、国立研究開発法人情報通信研究機構(以下、NICT)、株式会社ウェザーニューズ(以下、WNI)、LINE 株式会社(以下、LINE)が共同で研究開発している「LINE 版防災チャットボット^{※1}『SOCDA^{※2}』」の実証実験を、2019年8月4日より神戸市で開始いたします。

AI 防災協議会は、産官学が連携し、AI・SNS 等をはじめとする先端技術・IT インフラなど、参画各者それぞれが保有する強みを持ち寄り、組み合わせることによって、新しいイノベーションを創出し、災害対応能力の高い社会構築を早急に実現することを目指し、2019年6月18日に設立いたしました。本実証実験は、AI 防災協議会の最初の取組みとして、まずは「LINE 防災チャットボット『SOCDA』」の社会実装を目指し、協議会に自治体会員として参画している神戸市と共同で実施します。

(AI 防災協議会設立に関するプレスリリース: <https://caidr.jp/data/2019-06-18press.pdf>)

【神戸市との取組み】

NIED、NICT、WNI は、LINE の協力のもと、2018年12月21日に、神戸市職員を「市民役」にした「LINE@チャットボットを活用した災害情報収集実証実験」を実施しています。このトライアルを受け、本格導入を目指してより実践的な状況での効果検証を行うため、消防団員を対象とし、一定期間の稼働・効果検証を行う実証実験を開始します。実証実験には、このたび開設した「LINE 版防災チャットボット『SOCDA』」を実装した LINE 公式アカウント「神戸市消防団」を活用します。

- 8月4日の訓練詳細

消防団員が災害現場に関する情報を、LINE 上に開設した訓練用の LINE 公式アカウント「神戸市消防団」を通じて送信し、AIがそれらの災害情報を整理、集約して地図上に表示するもので、「神戸市消防団」に登録している消防団員が把握している災害情報をリアルタイムで共有化します。早期に災害の全体像を把握することで、災害対策本部での迅速・的確な判断を実現し、被害を軽減すること、また、緊急時に危険情報を一斉に情報伝達することで、災害現場の最前線で活動する消防団員の安全性を飛躍的に向上させることを目指します。

1. 実施日時 2019年8月4日(日) 11時から12時まで
2. 実施場所 市民防災総合センター 3階講堂 (神戸市北区ひよどり北町3丁目1番地 TEL078-743-3771)
3. 訓練参加者 (訓練参加者) 神戸市消防団員、消防職員、危機管理室など
(訓練主催者) 神戸市消防局警防部消防団支援課
4. 協力機関 NIED、NICT、WNI、LINE、NPO 法人コミュニティリンクなど

- 8月4日以降の運用について

「LINE 版防災チャットボット『SOCDA』」は8月4日の訓練以降も稼働させ、実際の災害発生時において活用し、ブラッシュアップを重ねていきます。また、今後は一般市民の参加する情報共有実証実験を行い、より多様なニーズの掘り起こしと効果検証を行う予定です。

「LINE 版防災チャットボット『SOCDA(ソクダ)』イメージ図



<参考>

※1 チャットボット:自動応答コンピュータープログラム

※2 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCIal-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマI「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。

【本件に関するお問合せ先】

AI 防災協議会

E-mail : info@caidr.jp

HP : <https://caidr.jp/>